

令和4年度 着手
令和7年度 第1回変更

県 営 やわたのおおいけ 八幡大池 地区 緊急防災工事計画書

(防災ダム事業)

愛 知 県

目		次	
第 1 章	目的	1	
第 2 章	地域及び地積	1	
第 1 節	地域	1	
第 2 節	地積	1	
第 3 章	現況	2	
第 1 節	気象	2	
1	一般気象	2	
2	特殊気象	2	
第 2 節	土地状況	3	
1	地形、土壌及び浸食の程度	3	
2	土地分類	3	
3	土地利用の状況	4	
4	土地所有の状況	4	
第 3 節	水利状況	5	
1	用水状況	5	
2	排水状況	7	
3	河川状況	7	
第 4 節	道路概況	7	
1	道路概況	7	
2	主要道路一覧表	7	
第 5 節	地域農業の概況	8	
1	産業別就業人口	8	
2	経営耕地広狭別農業経営体数	8	
3	主要家畜頭数	9	
4	主要作物作付状況	10	
5	農業の動向	11	
第 6 節	地域環境の概況	12	
第 4 章	一般計画	13	
第 1 節	事業計画の要旨	13	
1	要旨	13	
2	事業別面積	13	
第 2 節	営農計画及び土地利用計画	13	
第 3 節	用水計画	13	
第 4 節	排水計画	14	
第 5 節	道路計画	14	
第 6 節	農用地造成計画	14	
第 7 節	洪水調整計画	14	
第 8 節	干拓計画	14	
第 9 節	農用地整備計画	14	
第 10 節	老朽ため池改修計画	14	
1	洪水吐施設改修計画	14	
2	堤体補強計画	14	
3	取水施設改修計画	14	
4	緊急放流施設計画	14	
第 5 章	主要工事計画	15	
第 1 節	用水施設	15	
第 2 節	排水施設	15	
第 3 節	道路及び索道	15	
第 4 節	農用地造成	15	
第 5 節	洪水調整施設	15	
第 6 節	干拓施設	15	
第 7 節	農用地整備施設	15	
第 8 節	老朽ため池改修施設	15	
1	貯水池	15	
2	堤体補強施設	15	
第 6 章	附帯工事計画	16	
第 7 章	工事の着手及び完了の予定時期	16	
第 8 章	環境との調和への配慮	16	
第 9 章	換地計画の概要	17	
第 10 章	事業費の総額及び内訳	17	
第 11 章	効用	18	
第 12 章	関連する事業	19	
第 13 章	現況・計画平面図	19	
1	位置図	別添	
2	計画平面図	別添	

第1章 目的

上段（ ）書きは変更前

(36.2)

本地区は、愛知県豊川市の中心部よりやや西側に位置し、受益面積は28.0haである。農業は水稲と畑作が中心に行われており、かんがい用のため池として重要な役割をはたしており、用水はパイプラインにより各水田へ供給されている。

八幡大池においては、昭和50年度から昭和51年度に老朽ため池等整備事業により堤体、洪水吐、取水施設の改修を行い、平成18年度から平成19年度に豊川西部土地区画整理事業により堤体、洪水吐の改修を行っているが、令和2年度土地改良施設耐震事業において、地震時(Lv1)の堤体の安定計算を行ったところ、堤体の安定性が確保されず、決壊する可能性が確認され、底樋管についても耐震性を有していないことが確認された。

このため、堤体補強工及び緊急放流工の整備を行うことにより、ため池決壊による農作物・農業施設・公共施設等への被害を未然に防止し、農業経営の安定を図ると共に国土の保全を資することを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
防災ダム事業	豊川市

第2節 地積

(令和2年10月現在) (第2表)

令和7年2月現在

事業名	現況地目 市町村名	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
		(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
防災ダム事業	豊川市	(32.2)	(4.0)	—	—	—	(36.2)	豊川市都市計画図 から図測
		24.5	3.5	—	—	—	28.0	
合計		(32.2)	(4.0)	—	—	—	(36.2)	
		24.5	3.5	—	—	—	28.0	

第3章 現 況

第1節 気象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	豊橋		かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	平成3年～令和2年		5月～9月	10月～4月		
平均気温 (°C)			23.8	10.9	16.3	
降水量	平均 (mm)	898		749	1,647	
	基準年 (mm)	—		—	—	
降水日数	平均 (日)	51		53	104	
	基準年 (日)	—		—	—	
根 雪 期 間			—			
無 霜 期 間			観測なし			名古屋地方气象台
最 多 風 向			NW (豊橋)	最大風速 (風向)	27.1m/s (SSW)	最多風向 発生時期 通年
						最大風速発生年月日 年 月 日

※田原で観測されていない平均気温・最多風向・最大風速については伊良湖、無霜期間については名古屋のデータを記載

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 豊橋	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備 考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
観測期間 昭和51年1月1日～ 令和2年12月31日																
最大日雨量 (mm)	318	S58.8.17	1/269	226.0	H20.8.28	1/27	207.5	R1.10.12	1/17	204	H16.10.5	1/15	204	H3.9.19	1/15	
最大時間雨量 (mm)	89	S52.7.27	1/70	78	S62.8.5	1/32	76.0	H20.8.28	1/27	68	H2.9.14	1/15	67.0	H2.9.30	1/14	
最大4時間雨量 (mm)	183.0	H20.8.28 12:00～16:00	1/307	147	H2.9.30 11:00～15:00	1/48	139	S52.5.15 5:00～9:00	1/32	116	S62.8.5～6 20:00～0:00	1/10	110	H17.7.9 15:00～19:00	1/7	
最大連続雨量 (mm)	419	S58.8.15 ～8.18	1/52	362	S57.7.31 ～8.3	1/22	360.5	R2.7.3 ～7.11	1/22	356	S57.9.8 ～9.12	1/20	351.5	H20.8.28 ～8.30	1/19	
最大連続干天日数 (日)	41	H22.12.29 ～H23.2.7	1/31	38	H23.12.9 ～H24.1.15	1/21	37	H10.12.9 ～H11.1.14	1/18	37	S63.11.25 ～12.31	1/18	35	H7.11.24 ～12.28	1/14	

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑・その他							受益地標高(m)		備考		
		傾斜区分	1/1,000 以下	1/1,000 〽 1/100	1/100 〽 1/20	1/20 〽 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° 〽 8°	8° ~15°			15° 〽 20°	20° 以上	計		最高	最低
											8° ~10°	10° ~15°	小計						
防災 ダム 事業	面積(ha)	—	—	(32.2) 24.5	—	—	(32.2) 24.5	(4.0) 3.5	—	—	—	—	—	—	(4.0) 3.5	+45.5	+5.6		
	比率(%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0				
合計	面積(ha)	—	—	(32.2) 24.5	—	—	(32.2) 24.5	(4.0) 3.5	—	—	—	—	—	—	(4.0) 3.5	+45.5	+5.6		
	比率(%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0				

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土 壌 統 (区) 区 分 一 覧 表										面積(ha)			備考
	土 壌 断 面										事業名			
	色	腐植	礫層	酸化 沈殿物	土 性			泥炭層 黒泥層 及びグライ層	堆積 様式	母材	防災 ダム 事業	計		
					表土	下層土								
一層					二層	三層								
深津統	YR-Y 灰褐色	表層 腐植層 なし	なし	糸根管状 有~含	壤質	壤質	—	—	80cm以内に グライ層なし	水積	非固結 水成岩	(32.2) 24.5	(32.2) 24.5	水田
西尾統	YR 黄褐色	表層 腐植層 なし	なし	なし	粘質	粘質	—	—	—	洪積	非固結 水成岩	(4.0) 3.5	(4.0) 3.5	畑
計												(36.2) 28.0	(36.2) 28.0	

2 土地分類

該当なし

3 土地利用の状況

(令和2年10月現在)
令和7年2月現在

(第4表-3)

事業名	土地利用別	耕 地						原野	山林	採草放牧地	その他	計	備考
		水田	普通畑	牧草地	果樹園	茶園	その他の樹園地						
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		
防災ダム事業	豊川市	(36.2) 24.5	(4.0) 3.5	—	—	—	—	—	—	—	—	(36.2) 28.0	
合 計		(36.2) 24.5	(4.0) 3.5	—	—	—	—	—	—	—	—	(36.2) 28.0	

4 土地所有の状況

(令和2年10月現在)
令和7年2月現在

(第4表-4)

事業名	所有別 区分	個人有地等	国有地	県有地	市有地	計	備考
防災ダム事業	面積(ha)	(36.2) 28.0	—	—	—	(36.2) 28.0	
	受益者数(人)	158	—	—	—	158	
	筆数(筆)	(302) 227	—	—	—	(302) 227	
	権利関係	個人所有	—	—	—	—	
	備 考 (関係戸数)	—	—	—	—	—	
合 計	面積(ha)	(36.2) 28.0	—	—	—	(36.2) 28.0	
	受益者数(人)	158	—	—	—	158	
	筆数(筆)	(302) 227	—	—	—	(302) 227	
	権利関係	個人所有	—	—	—	—	
	備 考 (関係戸数)	—	—	—	—	—	

第3節 水利状況

1 用水状況

本ため池の主な水源は雨水と井戸水であり、用水路はすべて八幡大池を経由してパイプラインにてかんがいしている。

(1) 用水系統



凡 例	
地区内	▭
現況水路	→

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権		延べ取水量		備考
		500ha以上		500~100ha		100ha未満		箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha									
防災ダム事業	貯水池	—	—	—	—	1	(36.2) 28.0	1	(36.2) 28.0	—	—	—	—	1	0.080	
	井堰															
	自然取入口															
	揚水機															
	その他															
	計	—	—	—	—	1	(36.2) 28.0	1	(36.2) 28.0	—	—	—	—	1	0.080	
	合計	—	—	—	—	1	(36.2) 28.0	1	(36.2) 28.0	—	—	—	—	1	0.080	

(イ) 改修を要する施設の一覧表

上段()書きは変更前 (第5表-2)

事業名	項目	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設又は 更新年	改修を必要とする理由	備考
	施設名							
防災ダム事業	貯水池	八幡大池	(36.2) 28.0	前刃金土型	堤高 6.3 m 堤長 87.9 m 貯水量 28,900 m ³	平成19年度	堤体の耐震性不足となっていることから、決壊の危険性があり、底樋管についても耐震性を有していない。	
	井堰	—	—	—	—	—	—	
	自然取入口	—	—	—	—	—	—	
	揚水機	—	—	—	—	—	—	
	その他	—	—	—	—	—	—	
	計	1	(36.2) 28.0	—	—	—	—	—
合 計		1	(36.2) 28.0	—	—	—	—	

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用 施設	公共 施設	家屋 その他	計	
防災ダム事業	(32.2)	(4.0)	7.6	(43.8)	(18,323)	—	(96,316)	(3,476)	(632,994)	(751,109)	
	24.5	3.5		35.6	14,866		173,774	4,444	826,692	1,019,776	
計	(32.2)	(4.0)	7.6	(43.8)	(18,323)	—	(96,316)	(3,476)	(632,994)	(751,109)	
	24.5	3.5		35.6	14,866		173,774	4,444	826,692	1,019,776	
合計	(32.2)	(4.0)	7.6	(43.8)	(18,323)	—	(96,316)	(3,476)	(632,994)	(751,109)	
	24.5	3.5		35.6	14,866		173,774	4,444	826,692	1,019,776	

2 排水状況 該当なし

3 河川状況 該当なし

第4節 道路概況

1 道路概況 本地区の受益地内を市道が並走している。

2 主要道路一覧表 該当なし

第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総数	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス	運輸業	卸売・小売業 飲食店	金融保険業	不動産業	サービス業	公務	その他	備考
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
豊川市	186,802	4,918	25	51	30	6,251	28,819	305	4,891	12,630	1,666	-	-	3,499	123,717		
計	186,802	4,918	25	51	30	6,251	28,819	305	4,891	12,630	1,666	-	-	3,499	123,717		
比率(%)	100.0	2.6	0.0	0.0	0.0	3.3	15.4	0.2	2.6	6.8	0.9	-	-	1.9	66.3		

(出典：愛知農林水産統計年報第67次)

2 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

区分 市町村名	農業 経営体 数 (経営体)	経営耕地広狭別農業経営体数(経営体)										1経営体当り平均 農用地面積(ha)				備考
		0.3 ha 未満	0.3 ~ 0.5 ha	0.5 ~ 1.0 ha	1.0 ~ 1.5 ha	1.5 ~ 2.0 ha	2.0 ~ 3.0 ha	3.0 ~ 5.0 ha	5.0 ~ 10.0 ha	10.0 ~ 20.0 ha	20.0 以上	田	畑	樹園地	草地	
豊川市	1,685	196	423	703	226	68	35	12	10	6	6	0.68	0.50	0.30	0.43	
計	1,685	196	423	703	226	68	35	12	10	6	6	0.68	0.50	0.30	0.43	
比率(%)	100.0	11.6	25.1	41.7	13.4	4.0	2.1	0.7	0.6	0.4	0.4	35.6	26.2	15.7	22.5	

(出典：2020年農林業センサス)

3 主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		家きん		
	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営 体数 (経営体)	
豊川市	637	12	298	9	6,748	10	2,315	12	
計	637	12	298	9	6,748	10	2,315	12	
100経営体当り数量 (頭、100羽)	5,308		3,311		67,480		19,290		
飼養経営体数割合 (%)	0.7		0.5		0.6		0.7		経営体数/ 農業経営体数

出典：2020年農林業センサス

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名	豊川市	計	作付割合 (%)	備考
総耕地面積 (ha)	1,609	1,609		
区分	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)		
作物名				
水稻	760	760	53.7	2020年農林業センサス 作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付（栽培）した作物の類別作付（栽培）面積である。 「-」は、事実のないもの。 「X」は秘密保持保護上統計数値を公表しないもの。 表中 作付面積の「0」は1ha未満をさす。
麦類	x	x	—	
雑穀	1	1	0.1	
いも類	5	5	0.4	
豆類	58	58	4.1	
工芸作物	x	x	—	
野菜類	412	412	29.2	
果樹類	x	x	—	
花き類・花木	87	87	6.2	
その他の作物	90	90	6.3	
計	1,413	1,413	100.0	

第6節 地域環境の概況

豊川市は、愛知県南東部、東三河の内陸部に位置し、東部を豊橋市と接し、市域面積65.44km²、東西は12.62km、南北は11.54kmである。本市は名古屋から約60km、豊橋市の中心地から約8kmの距離にあり、東名高速道路、国道1号線、国道151号線、名鉄本線、JR飯田線が走り、東三河地域の交通拠点としての重要な位置を占めている。また、三河国府が置かれるなど、古くからこの地方の政治、経済、文化の中心として栄えてきた。近世においては、東海道、姫街道の街道筋のまち、豊川稲荷の門前町としての特徴が現れてきた。

建築物の国指定4箇所、県指定1箇所、市指定1箇所があり、史跡の指定は国指定2箇所(国分寺・国分尼寺跡)の他、市指定6箇所と、天然記念物は国指定2箇所(牛久保のナギ・御油の松並木)の他市指定3箇所がある。

主要作物は、野菜、花木を主体とする園芸作物であり、これらは東名高速道路を利用し、関東、関西、東北、北海道などに出荷されている。

(1) 特に配慮すべき生物環境

(ア) 植 物

特に配慮すべき植物はないが、本池の周辺は公園として整備されており、一部の水際に湿生植物が、水中に水生植物が見られた。

池側の堤体では、植栽の植物が多く見られ、人為的に管理された環境となっている。植樹された場所にはシロツメクサ、ツボミオオバコ等の低茎草本が見られた。池と反対側の法面にはチガヤ、セイタカアワダチソウの優占する草地となり、低木のクサギ、草本のイタドリ、ヒメジョオン等が見られた。また、水生植物はホソバミズヒキモが多く見られた。

(イ) 動 物

特に配慮すべき動物はないが、魚類は、在来種のもつご、ギンブナ、旧トウヨシノボリ類と外来種のブルーギルが確認された。

鳥類は、いずれの種も平地や丘陵地に見られる種が確認でき、水辺に見られる種はカイツブリ、ハクセキレイも確認できた。カイツブリは幼鳥も見られ、本池で営巣していたと思われる。

昆虫類は、池の水面上にはギンヤンマ等、水際付近にはセスジイトトンボ等のトンボ類、草地ではアワダチソウゲンバイ等のカメムシ類、モンシロチョウ等のチョウ類、池の水面上にはアメンボ、ヒメアメンボが見られた。

(2) 特に配慮すべき生物以外のもの(景観・文化財他)

景観として、自然的要素において、北部山地や遠見山等の山地をはじめとして、豊川や佐奈川等がある。また、御油の松並木や神社林、諏訪桜トンネル、赤塚山公園等もある。

文化として、建造物においては、国指定4箇所(八幡本宮、三明寺三重塔、三明寺本堂内宮殿、財賀寺本堂内厨子)・県指定1箇所・市指定1箇所があり、史跡においては、国指定2箇所(国分寺、国分尼寺跡)・市指定6箇所があり、天然記念物においては、国指定2箇所(牛久保のナギ、御油の松並木)・市指定3箇所がある。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

- 1 要旨 本池は、堤体及び既設取水施設の耐震性不足が確認されたことから、決壊に対する危険性が確認された。
このため、堤体補強工及び緊急放流工の新設を行うことにより、農地・農作物・農業施設等への被害を未然に防止し、農業経営の安定を図ると共に国土の保全を資することを目的とする。

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分 事業目的	防災ダム事業						計 (ha)	備考
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)		
農地防災	(32.2) 24.5	(4.0) 3.5	— —	— —	— —	(36.2) 28.0	(36.2) 28.0	
計	(32.2) 24.5	(4.0) 3.5	— —	— —	— —	(36.2) 28.0	(36.2) 28.0	

第2節 営農計画及び土地利用計画 該当なし

第3節 用水計画 該当なし

第4節	排水計画	該当なし
第5節	道路計画	該当なし
第6節	農用地造成計画	該当なし
第7節	洪水調整計画	該当なし
第8節	干拓計画	該当なし
第9節	農用地整備計画	該当なし
第10節	老朽ため池改修計画	
1	洪水吐施設改修計画	該当なし
2	堤体補強計画	上側に堤体補強工として押さえ盛土を行う。 下側に堤体補強工として鋼矢板打設を行う。
3	取水施設改修計画	該当なし
4	緊急放流施設計画	現況の取水施設の底樋管では耐震性を有していないため、緊急放流施設を洪水吐に併設する。

第5章 主要工事計画

- 第1節 用水施設 該当なし
- 第2節 排水施設 該当なし
- 第3節 道路及び索道 該当なし
- 第4節 農用地造成 該当なし
- 第5節 洪水調整施設 該当なし
- 第6節 干拓施設 該当なし
- 第7節 農用地整備施設 該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

1 貯水池

(第24表)

名称	八幡大池				位置	愛知県豊川市八幡町地内		
堤体	型式	流域 (km ²)	堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (m ³)	堤頂幅 (m)	貯水量 (千m ³)	備考
	前刃金型	0.015	6.3	87.9	—	4.6	28.90	堤体補強工を施工
洪水吐	型式	洪水量 (m ³ /s)	規模 (m)	備考	取水施設	型式	取水量 (m ³ /s)	備考
	水路流入式	0.47	2.2m×1門	緊急放流施設を新設		斜樋タイプ 取水孔：4孔×φ200 底樋：HPφ600	0.080	今回改修なし

- 2 堤体補強施設 (84.2) (87.3)
- (1) 堤体工 (上流) 押さえ盛土工法 L=76.1m (下流) 地盤補強(鋼矢板)工法 L=101.2m
- (2) 附帯施設工 緊急放流工 1式
- (3) 漏水防止工 該当なし

第6章 附帯工事計画

用地買収及び補償費

- (1) 用地買収 該当なし
- (2) 補償費 植栽等 : 1式

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1 工期

- 着手 令和4年度
- 完了予定 (令和7年度(予定))
令和9年度(予定)

2 工事の年度割予定

工種	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	測量・調査・設計						
工事							

■ : 変更前

■ : 変更後

第8章 環境との調和への配慮

1 配慮の対象

ため池及び周辺水路等の生息環境の保全に配慮する。また、池のもつ農村風景に影響をあたえないように配慮する。

2 配慮の方法

工事施工にあたり、池に生息する魚類等を工事の影響がない場所へ一時移動する。捕獲した外来種は駆除する。(影響の軽減/除去)
沈砂池等を設置し、工事期間中の濁水、土砂流出の防止を行う。(影響の軽減/除去)

第9章 換地計画の概要

該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分		事業名	防災ダム事業	備考
			(千円)	
事業費			(159,000) ※1 334,000	
事務的経費			(11,205) ※2 20,500	
合計			(170,205) 354,500	
関連事業 (参考)				

(令和3年度単価)

令和6年度単価、消費税については10%で算定。(但し、物価変動により将来変動することがある。)

※1) 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用

※2) 事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費

第11章 効 用

(第27表)

事業名	区分	項目	年総効果(便益)額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	備考
防 災 ダ ム 事 業		維持管理費節減効果	(△366) △417	—	
		災害防止効果(農業関係資産)	(4,987) 8,206	(4,987) 8,206	
		災害防止効果(一般資産)	(27,535) 35,961	—	
		災害防止効果(公共資産)	(151) 193	—	
		計	(32,307) 43,943	(4,987) 8,206	(令和3年度単価) 令和6年度単価

(但し、物価変動により将来変動することがある。)

《参考》

① 当該事業費	:	(141,361)	
		303,839	千円
② その他費用	:	(33,099)	
		22,054	千円
③ 総事業費	:	(174,460)	
		325,893	千円
④ 年償還額	:	—	千円/年
④' うち機能向上分	:	—	千円/年
⑤ 年総効果(便益)額	:	(32,307)	
		43,943	千円/年
⑥ 現況年総農業所得額	:	(24,712)	
		21,838	千円/年
⑦ 年総増加農業所得額	:	(4,987)	
		8,206	千円/年
評価期間	:	(44)	
		46	年
割引率	:	0.04	%
⑧ 総便益額	:	(545,279)	
		741,104	千円
⑨ 総費用総便益比 (⑧÷③)	:	(3.12)	
		2.27	≧ 1.00
⑩ 総所得償還率 (④÷⑥)	:	—	≦ 0.2
⑪ 増加所得償還率 (④' ÷⑦)	:	—	≦ 0.4

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画平面図

- 1 位置図 …………… (別添)
- 2 計画平面図 …………… (別添)